

この「広報ひこね」は48,000部作成し、1部当たりの単価は8円(1円未満切り捨て)です。ただし、原稿作成・編集などにかかる職員の人件費は含まれていません。

知っていますか 外来生物のこと

外来生物とは

外来生物は、もともと、その地域にいなかったのに、ほかの地域から入ってきた生き物のことです。生き物は、それぞれの移動能力に応じて、現在の分布域に定着してきました。しかし、近年、人が世界中を移動するようになり、生き物は、人間の意図する・しないにかかわらず、人間と共に移動するようになりました。本来、分布域でない場所に来た生き物の多くは、その地に適応できず、子孫を残すことができません。しかし、まれに本来の分布域でない場所でも定着し、子孫を残すことができるものもあります。これらのなかには、人間の生活や生態系に大きな影響を及ぼすものもあります。外来生物が引き起こす影響として、次の3つがあります。

外来生物が引き起こす影響

- ▼ 在来生物を食べてしまったら、在来生物の生育環境を奪ったりして、固有の生態系に影響を与える
- ▼ かんんだり、刺したりして、人の生命・身体に影響を与える
- ▼ 農林水産物を食べてしまい、農林水産業へ影響を与える

特定外来生物とは

特定外来生物は、海外起源の外来生物であって、国内の生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生き物のなかから指定されます。特定外来生物は、生きているものに限られます。また、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれます。

彦根市の現状

彦根市においても、外来生物により在来生物の生息が阻害され、市内の景観に変化が生じたり、農林水産業への影響も出たりしています。左の表で、彦根市内に生息している特定外来生物を紹介します。

今後、私たちの生活や、自然環境に被害を受けないためにも、すでに生息する外来生物については、ほかの地域に拡げないようにするなど、外来生物の取り扱いに注意しましょう。

対策の方法

生き物は、一度生息すると、排除することが、大変難しくなります。植物は、一度刈り取っても、根が残っていれば、翌年にも生える可能性があります。また、種子をつける時期に刈り取ると、種子がまかれて、生息域が拡大するおそれもあります。彦根市に固有の生き物を外来生物から守るために、左の3原則を守りましょう。

問い合わせ先 圃生活環境課 ☎30-6116番、FAX 27-0395番

外来生物被害予防3原則

- 入れない
悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに、日本に入れない
- 捨てない
飼っている外来生物を野外に捨てない
- 拡げない
野外にすでにいる外来生物は、ほかの地域に拡げない

表 市内で定着(帰化)している特定外来生物一覧表

名称(主な生息域)	特徴	
植物	オオキンケイギク (市内河川敷 など)	5~7月にかけてコスモスに似たオレンジ色の花を咲かせる。
	ナガエツルノゲイトウ (神上沼)	水辺の湿った環境に生える多年草で白い小さな花を咲かせる。
	オオフサモ (彦根城黒門北側付近)	抽水性の多年草で水面からの高さは20~30cm。葉は線形で薄いグリーン。
	オオカワヂシャ (犬上川河口)	オオイヌノフグリに似たブルーの花を咲かせる。高さは0.3~1m。
	アゾラ・クリスタータ (矢倉川河口付近)	浮遊性の水性シダで、秋には赤色になる。
魚類	ブルーギル (市内湖沼河川)	幼魚では体側に7~10本の暗色横帯がある。成魚は暗褐色に黒ずみ、横帯はやや不明瞭になる。
	オオクチバス (市内湖沼河川)	体側から背にかけて不規則な暗斑がある。腹側は黄味を帯びた白色。
両生類	ウシガエル (市内水辺)	体長18cm程度。背面は濃緑色で黒色の斑紋があり、腹面は白色で咽喉部は淡黄色。



▲オオキンケイギク